景観まちづくり地域ディスカッション

【概要】

開催日：①１１月２９日（木）ＰＭ２：２０～４：１５
　対象：羽生妻沼線沿線にお住まいの皆さん（参加者１１人（市議１、県職員１含む））
場　所：くまがや市商工会妻沼支所　２階女性部研修室
内　容：景観に関するミニ宅配講座後、参加者と意見交換を行いました。

【意見交換（●事務局　　○参加者）】

●今まで日本人は外国の真似をして、色々な看板を作ったりしてきた、というようなところがあると思うんですね。例えば、めぬまの商店街もそうですが、それまで看板があったところを鉄板で囲って全部看板としてするようになった。この形式が見られるようになったのが、昭和３０年代頃からのようです。それで景観というものが大きく変わってきた。ただ、当時の人達にとってはそれが流行であり、それが良かったのだと思います。しかし、近年それらを再び以前の景観に戻そうという動きが出てきています。その背景の１つに、団塊世代の皆さんの存在があると思います。色々なところに出かけ、色々なものを見聞したいとお考えであり、またそれが出来るだけの時間や金銭的余裕もお持ち合わせになっている方が多い。私どもで、埼玉県の景観の取組の一環として、昨年からまち歩きイベントを行っていますが、参加者の大半がその年代の方でした。昔のことを覚えている方には、そうした古い建物がとても懐かしいものとして映るようです。そうしたこともあってなのか、全国的にそうした古い建物等の価値が見直されてきています。

さて、聖天様が国宝となって、大勢の観光客の方が来られるようになった。これを地域活性化につなげていきたい、商工会のほうでも色々な取組を行われているようですが、なかなか難しい部分もある。町並みの景観を良くしていくためには、まず地域の活性化が大事。しかし、通りを回らせていただくと空き家が多い。１０年後はどうなるかわからない、とお話になったお宅も多かった。また、この県道羽生妻沼線沿いは都市計画法上で近隣商業地域という比較的建築物の規制が緩い地域となっていますので、今後、聖天様の歴史ある町並み景観にそぐわないような建物が建つ可能性も十分に考えられます。それを防ぐためにも、今の段階で、今後このまちをどういうまちにしたいか、という方向性を決めておかないといけないのではないか、と危機感を抱いています。まずは、地元の皆さん達は実際にどうお考えになっているのか、そうしたことをお聞きしたく、この席を設けました。まちづくりや景観など、どのような内容でも結構ですので、ご意見をいただければと思います。

●例えばお隣近所に空き家が増えている、例えば、お年寄りが１人暮らしされているお宅があるなど、地域のコミュニティによる支えあい、という部分からでもご心配されていることなどありますか。

○近所の店舗が空き家になっている。とてもいい造りのお店なので維持してもらうために、開放して皆に貸出ししてほしいと考え、所有者の方にお願いに行ってきました。まだ、返事はいただけてはいませんけれど。建物は閉じたままでは痛んでしまいますから。もし借りることができたとして、どう使わせていただこうか、ということも考えていく必要はありますけれども。

●ちなみに貸す側の立場に立ったときに、空き店舗や空き地を貸すにあたって、どのようなことが障害になってくるのか、もし何かご存知でしたら、お話いただければと思うのですが。
○池の上地区は空き家が多くなっているのですが、聖天山の境内側は、新規に貸す予定はないようです。そちら側は昔、土手だったのです。だから、聖天様としては昔の形に戻したいのかな、と思っているのですけれど。
●ちなみに借りたいというお問い合わせはあったりするのでしょうか。
○ないことはないそうですが、空き家はあるものの、改装等なくそのまま店舗として使える物件が限られています。元は商店でも住宅になってしまっていますから。それが、ちょっとネックとなっているのかな、という気がします。
●境内の土地は、お店の場合も新規はご遠慮いただきたいというような感じなのですかね。
○聖天山側の借家は当初大半が商売を行っていたが、少しずつ減ってきている。
●聖天山側の貸家については、商店をやめて住宅となったお宅もありますが、商売をやらないなら貸さないということではなく、借りていたご本人が他所にお家をお持ちになり、引越しされたというお話を以前伺ったことがありましたが。
○同じ聖天山側でも、場所によって違うようです。池の上地区に関しては昔に戻したいというご意向があるようなんです。
●県道の南側の建物や空いている土地についてのお問い合わせは、どのような状況でしょうか。
○一度介護施設による「足湯」の話もありましたが、実現には至りませんでした。

●これからは地域による情報発信が重要と考えます。全国的にシャッター街となっているところ等では地元の人達が自分達のまちのことをあまり知らない、自分のまちがあまり好きじゃないのかな、という人達が多いのかな、という印象があります。最近はかなり有名な観光地でも寂れてきているところが多い。これからは観光地としてやっていくためには、絶えず何らかの宣伝、情報を発信し続ける必要があるのではないかなと感じています。

●例えば妻沼聖天山以外で、まちなかでの見所やＰＲポイント等、なにか情報はありますか。
○能護寺のあじさい、赤岩の渡し船からの景色、グライダーなど、他にも色々と名所・名物はあるが、それらを例えばビデオなどで取り上げてもらえるにはどうすればいいのかな、と考えています。
○妻沼の聖天様、という名前はある程度浸透しているが、熊谷の聖天山といわれてもすぐにピンとこない人が多い気がする。太田市の人達など、違う建物が国宝になったのだと思っていた人もいた。熊谷にある「妻沼の聖天様」と紹介しないと、そこで違ってきてしまう部分もあると思う。
○かつて源頼朝が群馬の新田に来たときに奉られたという八幡宮が利根川の河川敷内にあったが、河川改修に伴い、土手の上に遷宮され、若宮八幡宮となっている。見事な彫刻等が施されていたが、保存状態が悪く、歴史に埋もれつつある。また、妻沼地内の摩多利神社も、実はとても珍しい神様であると聞いたことがある。戦後修復作業がなされた際に古銭が大量に見つかったこともある。いずれも修復ができれば、観光資源として観光の周遊ポイントとして活用できるのではないかと思う。

●同じように、妻沼のまちなかでの地元の皆さんだけが知っている、というような見所や情報などはありますか。

○聖天山の中門の前の通りは鎌倉街道と呼ばれている。さくら公園から瑞林寺に抜けていた通りだが、源頼朝が来たとき、途中の川に布を掛けて渡したという伝説があり、「布橋」の由来となっています。
●長い歴史の中で、聖天様は多くの事柄に関わってきたのだと思います。形に残っていないことも多い。そうしたことを地域の皆様が語り継ぎ、盛り立ててきたのだろうな、と感じます。

●今後のまちづくりや通りの景観づくりについて、何か行政に対する要望等はありますか。

○電線地中化は通りが広くなったように見えるし、綺麗になっていいと思うが、費用はどうなのか。
●電柱の地中化自体は東京電力にお願いとなるのかと思いますが、市でも相当の費用負担を負うことが予想されます。

●通り沿いの景観などについてはどうでしょう。例えばこの地区でなら１０階建てのマンションなどが建つという可能性も考えられるのですが、そうしたことが話題に上がったことなどはありますか。
○マンション等が建つことは想定していない。それより私達が一番考えているのは、街路灯について。まちなか再整備の話が出たが駄目になった。現在のものは古くなってきており、また破損しているものもあるなど、夜通ると酷い状況となっている。先日、本庄市に夜訪れたが、商店はないのに、素晴しい街路灯が整備されていて、夜の活気が感じられた。通った人はこのまちはいいな、と感じるのではないかなと思った。逆にめぬまはなぜこんなに酷いのだろうと愕然とした。再整備の際に反対された方々は、ご自分の家の前に建たないから、という理由もあったらしいのですが、今はもうそういう個人的な目線で考える時代ではないのではないかな、と思う。町並みをどうするのか、よそから来る人達がこの通りを通った際にどう感じるのだろう、といったことを考えなければいけない。まして、リードさんという街路灯メーカーのお膝元であるのに、こんな酷い状況ということがとても悲しい。防犯的にも問題があると思うし、夜通った人は、こんなところ二度と来ようと思わないですよ。
○街路灯が全然違う。本当素敵ですよ。めぬまのまちに入ると、街路灯が一番情けない。明るいまちにするには街路灯が立っていないと駄目ですよ。
○景観ということであれば、それもひとつの景観なので必要じゃないかと思う。
●街路灯や町並み、また建物が無くなっていくということも含めて、聖天様の門前町としての風情をどうしていこうか、というのがまず初めの一歩なのかなと思います。
○街路灯にしても聖天様に合うようなものにしたほうがよい。
○今は色々なデザインがあるからイメージに合うものを選べばいいとして、建てなくてもいい、という発想自体が私には理解できない。
●お店をやっている方も住んでいる方も、このエリアは門前町なのだという意識が･･･
○ない。
○まずは明るいまちにするのだから、一番やれることは街路灯ですよ。
○店を増やせといわれても、もちろん増えてほしいが、すぐに増えるものではない。一番手っ取り早いというか、簡単なハード整備としてできるのは街路灯をやるとか。あと１つは、聖天様の門前、せめて大型トラックは規制してもらいたい。非常に見ていて危ない。歩いている人、まして通学路である。小学生が歩いている脇を大型が通り抜けていく。これが規制されていないということが異常だと思う。
○昔は大型車が進入禁止だったはずだが。

○抜け道のようになってしまっているんですね。その辺が身近で近々で出来ることなのではないかな、と感じています。

○今回の地域ディスカッションの案内では、まちづくりに対する未来の景観形成ということになっているが、未来ではなく、来月とか１年後といった近い期間でのことを考えないと、めぬまは終わってしまう。聖天山への観光客も減ってきており、必然的に私達のお店に来る人達も減っています。まちを歩く人も減っている。今やらなければ、もう後はないですよ。まちづくりをするのであれば、長い目で考えてとか言っている段階ではないと思う。

●長い期間での目標を目指しながらも出来るところからやっていく、と考えていただいて、まずはこのエリアをどういう風にしていきたいか、という根のところが大切だと思うのです。

○何もしなければ１０年後には更地が増えてしまう、ということがわかっているのであれば、このまま何もしないでおくというのでは、これはえらいことですよ。

●２０年後、あるいは５０年後の話をするのは、建物の建替時期にあたることを想定するからです。正直なところ、整備や補助金などの行政の予算は、これから先どうなっていくのかわからない状況です。山形県金山町では、１００年計画で杉のまちを目指し、建築士や設計士、地域の皆さんが一緒になった取組を行っています。建替えにあたって、建築協定や景観協定といったものをつくり、ある程度の規制を掛けていくことで町並みを揃えていったほうがいいのではないか、ということは地元の皆さんが決めていかないと出来ないことなんです。

○実際にそうした話とか規制をつくる、という話はおきていないのでしょうか。

●今現在はありません。ですからこういう機会で、皆さんにそういうことを考えていただいて、行政もお手伝いをさせていただきながら、こういう方向性のまちづくりにしていきたい、ということを作っていただきたいなと考えています。地域の皆さんの団体を作って、景観的な色々なことを決めていく、全国ではそうした方向に進んでいる地域も多くなってきています。地域の皆さんが全員納得をして、こういう方向性にしたい、というのを決めないと、今は何が建ってもおかしくない、法や条例の規制にあっていれば建てられるという状況です。確かに今日明日の話ではありませんが、地域にそぐわない建物や高い建物などが建ってしまう前に、何らかのルールを皆さんで決めておいていただきたいと思っています。

○例えば街路灯の話は商店街がひとつにまとまれば可能な話だと思います。テレビ放映などの機会を通じて、めぬまの知名度も徐々に全国区となってきつつある。それにつれて、聖天様にも全国から今までにない意識の高い人達が訪れ、町並みの景観やお店の接客態度などについても評価されている状況を迎えているわけで、駄目だと思われないためには、商店街が一本にまとまって、例えば街路灯をどうしていこうか、と言った観点から考えないと物事は先に進まないと思います。

○先日コミュニティセンターでこの地域を対象とした立正大学の学生さんたちの研究発表会があって、そこで、この地域のいい所、悪い所を指摘されました。景観の話も出ました。皆さんが目標をかなり高いところにおきながら物事を解決していかないと、めぬまは良くならないですよ。行政でやるもの、民でやるもの、協力してやるもの、それぞれ対応していってやらなければ。それから、めぬまの良さということについては、景観もあると思うが、数多くのボランティア団体がある。人を呼び込める団体も増えてきている。商店街でひとつにまとまって「何をやるべきか」を考え、すぐ出来るものも、

長期的でなければ出来ないものも、１つ１つ取り組んでいけばいいと思う。道路についても立正大学の生徒から、手を組んで歩きたいが、道路が狭いので恐怖感が伴うと話があった。ならば、この通りを大型規制なり一方通行化なりして、そこから考え方を変えていく。そういうことを考えながらやっていく必要があるのかなと。客観的な目から出てきた指摘に対しては、商店街としても取り組んでいく必要がある。地元では出来ない部分については行政に相談しながら進めていく。そんな気がしますけれど。

○景観そのものという意味では、川越のように町並みが揃えることがいいのではないかと思う。例えば道路から１間以内は瓦屋根にするとか。大屋根は傘型にするとか。そういう規制は掛けてもいいのではないかな、と思う。３階建てでも４階建てでも、１階部分についてはこうしてください、といったような。３階の家がどんどん出来ていることだし。
○門前町にふさわしい日本家屋の誇りを。ただ、それにはお金がかかるからね。直すにしても。
○以前に瑞林寺の庫裏を直した際に、色々な案が出てきたが、やはり寺にあう建物を建てなければいけないという議論があった。
●地域の皆さんの色々なご意見を聞きながら、１つにまとめていく。皆さん全員が納得して規制をかけていく。そういうものが出来てくれば、１０年後２０年後、建替えに伴って少しずつ町並みが揃っていくことになる。そのためには、やはり皆さんが集まって納得の上で、こういう方向性にしていく、というものを決めない限りは出来ないと思うのです。
●ただ揃えるのではなく、この地域ではぜひ聖天山の門前町らしい町並みの統一感を目指してほしいな、と。聖天様は庶民の浄財で造ったという経緯もありますし、地域の皆様の考えが１つになって、進めていくこと。これが一番大切なことで、皆さんが１つにまとまること。めぬまという地域の誇りもそこにあるのではないかな、と思います。

○先ほどの立正大学の学生による発表会では、門前町にふさわしくない色という話が、境内も含めて指摘がありました。景観にも関わってくるので、そういうところも改善していかなければならない。色々な観点から考えていかないといけない。
●色の問題に関しては、２月に色彩の専門家で、市の景観審議会委員も務めていただいている葛西紀巳子先生をお迎えして、講演会を予定していますので、ぜひご参加いただければと思います。

○今回の集まりはありがたいと思います。しかし、今までにも会議などで要望をまとめられていると思います。私たち商店主は一生ここで生活していかなければならないので真剣です。お願いばかりはしたくはありませんが、道路や大きなハード整備等については、行政に任せざるを得ない。形ばかりの会議では何も変わりません。聖天様が盛り上がっているうちに何か形にしなければ後がありません。こうした会議で出された意見等を、有効に実の有る成果となるよう努めていってほしい。要望としては交通規制の話や、そのほかにも情報等の看板設置なども出来るのではないでしょうか。

○アメリカなどでは、商店街をモール形式で運営している事例がある。郊外のショッピングモールなどでは色々なお店が入っているが、もともとは町の中もモール形式で色々な店が混在していた。ただ、各店舗の仕入れをそれぞれで行っていたから、そうしたものに負けてしまうわけだけれど。そういう

ところを皆が隣の家とうまくやりながらモール形式でやっていけば、門前町としても成立するのではないだろうか。

○旧坂田医院診療所について、今後はどのように考えているか。
●今年度は建築士会に依頼して修繕方法についての検討等が行われている段階だと聞いています。直接の担当ではないので聞いている話ですけれど、建物内部の内装修繕や床板の張替えなどして、内部の見学が出来る状態にしていくということのようです。その後の利用方法についてまでは、まだ決まっていないようですけれども。修復作業自体はすぐに始まっていくという話だと思います。
○建物の修繕が終わったとして、単なる展示ホールのようにするだけでは発展性がないので、１つの案としては、例えば観光案内所のようにするなどといった活用もあるのでは、との意見もあります。
●どのような使い方となるかは現時点では確定していないと思いますが、管理に関しては地元の団体等にお願いして運営していくといった方向性になるのではないかと思います。
○使い方についても、それが採用されるかは別問題としても、地元としての案をまとめて希望を出していけばいいと思う。

○電柱の地中化について先ほど話が出ていたが、電柱が撤去されても、代わりに地上機器類のボックスを設置しなければならないが、歩道等に入れられる余裕がなければ、私有地に入れられるか、という検討となる。だから、電柱の地中化を考える場合は、そうした空間的余裕があるかについても、考えていかないといけない。

●色々とご意見を出していただき、ありがとうございました。残念ながらお時間が来てしまいましたので、本日の意見交換はここまでとさせていただきます。地域の誇りを持ちながら、この先この地域をどう考えていくべきなのか、ということを盛り上げていっていただきたいと思います。本日はありがとうございました。